

S51 年卒同窓会を松山で開催しました（2018 年(H30 年) 9 月 15~16 日）

約 15 年位前から、東京、大阪と一年に一回ほどのペースで阪大溶接（主に、S47 入学）のメンバーで同窓会を行ってきましたが、昨年の富山での同窓会（4 月 15 日—16 日）に引き続き、今回は、松山に同窓生がおられることもあり、坊ちゃんの町松山でまたまた、一泊付きの同窓会を 9 月 15 日—16 日に行いました。

当日は、東京組、大阪組、そして富山、名古屋からも同窓生が集まり、またまた素晴らしく楽しい同窓会になりました。

昼間は、空港で、宇和島名物の「鯛めし」を味わった後、松山城ロープウェイに乗って、松山城に上り、地元出身の篠崎先生からの昔話を聞きながら、松山市内の名所を展望し、その後、松山城に坂の上ミュージアムや NHK で有名になったおはなはんの街並みや、重要文化財の内子座などを散策し、非常に充実した観光を行うことが出来ました。

夜は、みんなで、温泉でゆっくりした後、数多くの美味しい魚、お酒に全員が舌鼓を打ち、さらにこの夜の宴会では、40 年以上前に実験などを中心にご親切にご教授いただき、ずっと、四国などを中心にご活躍されてこられた荒木先生も急遽お出でいただき、いつも以上の盛り上がりになりました。

荒木先生のまだまだお若いそのパワーだけでなく、我々同窓生全員のことを、正確に覚えてられるその記憶力の良さに全員が驚きの連続でした。

同窓会に参加するたびに、懐かしいひと時を過ごせるだけでなく、この上ないパワーをもらえる場だと痛感していますが、今回は、昨年同様、一泊二日で普段以上に長く、そして深く話が出来、溶接工学科をベースにした同窓生の深い絆を強く再認識したひと時でした。特に、荒木先生、篠崎先生、さらには地元で今もご活躍の小原先生たちの溶接だけでなく地元の話、昔の懐かしい話をお聞き出来、全員がまだまだ、現役であり元気であることを再実感したひと時でした。

次回は、さらに人数を増やして、そして今のまま健康に留意して元気に再会することを全員で約束して、それぞれの帰路につきました。

来年は、篠崎先生を中心にお世話になり、広島か山陰地方でまたまた、40 余年前に阪大溶接工学科で過ごしたかけがえのない青春の貴重なひと時に思いをはせ、うれしさを感じる同窓会にしたいと思います。

今回参加できなかった仲間からは、「次回は絶対に参加するから！いつやるか教えてくれな
いか」というメールが届いており、幹事として嬉しい限りです。 (記；清水仁)



左から
小原、安田、荒木先生、大谷、喜渡



左から、
(前列) 持木、大橋、小原、寺澤、篠崎、安田
(後列) 清水仁、松下、辻、清水孝雄、大谷、喜渡

